



南アルプス南部の前衛の山ともいえる山伏である。写真では山伏岳となっているが、地図ではただ山伏となっている。ガイドの廣澤さんの話では、本当はサンプクであるが、三伏峠が同じ南アルプスにあるのでやんぶしになったということである。やんぶしという語感から修験道者の歩く道を連想してしまうが、なだらかな極めて優しい道である。今回は山伏(2014m)を最高点として八紘嶺(1918m)までの縦走であるが猪ノ段下(1750m)まではバスで行ってしまうので、まあ楽チン登山のはずである。しかし今回のガイドの廣澤さんは極めて評判が悪い。客のことなんかほったらかしでどんどん先に行ってしまうというもっばらの評判である。以前に毎日新聞旅行のツアーに参加した時に静岡の山に行くときには気をつけた方が良くといわれた。往きのバスの中でもツアーガイドの荻野さんから“自分が2番目を歩いてペースを作ります”などと言われた。

今回のメンバーは男6人に女4人、シュラフ持参で避難小屋泊まりということでこうなるのかも知れない。今回も札幌のHラダさんがいる。他にも女性ではよく見る顔がいたが名前はわからない。男の方は見覚えのある顔はいないが、“どこかで会いましたネエ”といわれた人はいた。

初日は山伏避難小屋までで、案内書には1時間と書いてあったが、30分も歩かないうちに着いてしまった。雨が降り始めていたのでちょうどよかった。まだ14時台であったので、

持参のワンカップ焼酎2本は16時の夕食前に空っぽになってしまった。今回は男も女も飲む人は少なく、廣澤（ガイド）さんと荻野（ツアーリーダー）さんがわずかに持ってきただけで、あとは一人がワインを500ml持ってきただけであった。そんなわけで私一人が酔っぱらったみたいで、“廣澤さん、明日はゆっくりやってね”“それでは自分の後を歩いて下さい”などという会話が交わされたみたいであったが、酔っぱらっていたので覚えていない。山伏避難小屋は結構広いので12人の客では快適であった。よく整備されているので清掃に入る人もいるのであろう。山で泊まるときにはいつもそうであるのだが、4回くらい小便に出て、寝るたびに夢を見た。5本立てくらいになった。これもいつものことである。



富士山の日の出

前日の雨は寝ている間に抜けて、キジうちのために外へ出ると、三日月に少し邪魔をされてはいるが、梢越しに星がキラキラ輝いている。オリオンも認識できる。

4時起きで5時40分にはもうスタート。ヘッドランプで歩いて6時には山伏の頂上に立っていた。前夜の話で周りの人や廣澤さんが覚えていて“高橋さん、2番目に来てよ！”と言われたのでそうした。ちょうど





山伏の山頂で日の出になった。

大半は気持ちの良い草原状の山道なのであるが、大谷嶺や八紘嶺の前などは結構急な登りもあって楽ばかりさせてくれたわけではない。バアサマ 4 人は私をしっかりマークして付いてきたが、男の方がだらしく遅れることも多かった。避難小屋での泊まりということで、荷物の持ち過ぎと思える人もいた。

八紘嶺までは結構きつい登りがあった。足をつらした人もいたのでみんなきつかったのであろう。八紘嶺には 1971 年に七面山から登ったことがある。あの時には八紘嶺の頂上には「八紘一字」の大きな石碑があったが、今は撤去されたらしい。右翼のおじさんたちはここまで登ってきてお参りをする人もいなかったようで、撤去されても文句は言わなかったのかもしれない。



札幌の H ラダさんが、山伏避難小屋に泊まるよりも梅が島温泉に泊まって山伏まで行くコースの方がいいよと言って荻野さんに迫ったら、荻野さんも“今度、会社に提案しておきます”などと答えていたが、冗談じゃアない。旅館に泊まるツアーなんていくらでもある。避難小屋まで 30 分で着いてしまうなんて、こんな楽な避難小屋泊まりはめったにお目にかかれない。絶対ハンターイである。どうも飲めないやつばかり集まるとこういった傾向になる。